

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 夢をかたちに (Scale up your Dream, and Build up your Future.)

生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持ってその実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成する学校をめざす。

## 【生徒に育みたい力】 日根野高等学校 校訓「自立・共生・友愛」

- 1 主体的に考え行動することで、変化する社会に対応し、地域社会の発展に貢献できる力。[自立]
- 2 一人ひとりの多様性を理解し、人それぞれの違いを自然に受け入れ、支えあい、互いに認めあう社会を実現する力。[共生]
- 3 周りの人に対して思いやりの情を持ち、基本的人権を尊重し社会に奉仕貢献できる力。[友愛]

## 2 中期的目標

1. 授業改善を行い「確かな学力」を育成し、生徒一人ひとりの進路を実現する。

(1) 主体的・対話的で深い学びを探究し、よりよく問題を解決することのできる力の育成をめざした授業改善を行う。

ア、教員間の相互授業観察や研究授業を推奨し、授業アンケートを活用した振り返りを丁寧に行い、授業力向上に取り組む。

イ、ICT 機器を効果的に活用し、生徒個々の能力に応じた最適な学びを提供する。

ウ、授業における生徒の言語活動を活性化し、協働的に対話的な学びを推奨し、学びの深化をめざす。

※授業アンケート総合スコア(令和9年度には3.3以上 (R4 第1回3.29 第2回3.31、R5 第1回3.41 第2回3.42、R6 第1回3.42 第2回3.44)を維持する)

※生徒向け学校教育自己診断「ICTを活用した授業への満足度」(令和9年度には85%以上(R4 84%、R5 84%、R6 94%)を維持する)

※授業アンケート「考える時間や発表する活動を多く取り入れている」

(令和9年度には3.3以上 (R4 第1回3.30 第2回3.30、R5 第1回3.34 第2回3.38、R6 第1回3.36 第2回3.39)を維持する)

(2) 生徒一人ひとりの能力を最大化させた進路を実現する。また、専門コースを持つ普通科高校として、コースに特化した進路実現をめざす。

ア、本校のキャリア教育「ひねのプログラム」を推進し、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断「進路や生き方を考える機会」(令和9年度には85%以上(R4 94%、R5 91%、R6 92%)を維持する)

※国公立大学・難関私立大学(関関同立・産近甲龍)進学者数(令和9年度には10%以上(R4 3%、R5 6%、R6 10%)とする)

※看護・医療系進学者数(令和9年度には20%以上(R4 24%、R5 22%、R6 20%)を維持する)

※幼児教育・保育系進学者数(令和9年度には5%以上(R4 6%、R5 7%、R6 4%)を維持する)

イ、コースや科目選択時のガイダンスを充実させ、生徒の進路実現を支援する。

※生徒向け学校教育自己診断「コース選択・科目選択への取り組み」(令和9年度には85%以上(R4 88%、R5 85%、R6 91%)を維持する)

(3) 生徒一人ひとりに寄り添った丁寧で細やかな指導を行い、夢の実現を支援し、生徒・保護者の満足度を向上させる。

ア、志学・道徳教育・人権教育・進路指導を系統的に結合したキャリア教育を行い、生徒の能力を伸ばす。

イ、多様な人材・機関と連携した学校づくりを推進し、外部機関の専門的な知見やフィールドを生かし教育内容を充実する。

ウ、優れた教育活動を展開し、その魅力を効果的に発信することで、地域から愛され、選ばれる学校をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方をよく考える機会がある」(令和9年度には85%以上(R4 94%、R5 91%、R6 92%)を維持する)

※入試志願者倍率(令和9年度には1.10倍以上(R4 1.19倍、R5 1.09倍、R6 0.97倍)にする)

2. 豊かでたくましい人間性をはぐくむ

(1) 人権・多様性を尊重する教育を推進し、差別やいじめを許さない意識、なくす実践力を育てる。

ア、「大阪府いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向け、組織的に取り組む。

イ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する。

ウ、教科「情報」の授業やHR等を通して情報モラル教育を推進し、情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てる。

エ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。

※生徒向け学校教育自己診断「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応」(令和9年度には85%以上 (R4 89%、R5 87%、R6 94%)を維持する)

※生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会」(令和9年度には85%以上 (R4 81%、R5 80%、R6 90%)を維持する)

※のべ遅刻者数/4-12月(令和9年度には3,000人以下(R4 3,632人、R5 4,398人、R6 3,419人)とする)

(2) 部活動、学校行事、ボランティア活動等への参加を通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育成する。

ア、部活動、学校行事を活性化し、生徒が自主的に活動、運営することにより、自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育てる。

イ、地域と連携し、生徒の発信・発表の場を多く設けることで、社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解させる。

ウ、生徒の自主性・自律性を尊重し、生徒会活動等を通して生徒の主体性を育て、自己実現を図る力を育成する。

※部活動加入率(令和9年度には60%以上(R4 55%、R5 45%、R6 53%)とする)

※生徒向け学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」(令和9年度には85%以上(R4 88%、R5 82%、R6 90%)を維持する)

※生徒向け学校教育自己診断「先生の指導は納得できる」(令和9年度には80%以上(R4 79%、R5 74%、R6 80%)を維持する)

(3) 保護者・地域への情報提供を積極的に行い、保護者等の意見を教育活動に取り入れ、開かれた教育活動を推進する。

ア、保護者や地域との連携を深め、学校、保護者、地域が一体となった教育の充実を図る。

イ、多様な手段を用いた情報発信を行うとともに、情報収集を積極的に行い、意見を反映した学校経営を行う。

※保護者向け学校教育自己診断「保護者の相談に適切に対応してくれた」(令和9年度には85%以上(R4 91%、R5 86%、R6 90%)を維持する)

※保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供努力満足度」(令和9年度には85%以上(R4 91%、R5 89%、R6 86%)を維持する)

3. 安全で安心な学び場を作るとともに、働き方改革を実現する。

(1) 障がいのある生徒への理解を深め、SC等の専門人材との連携を図りながら、合理的配慮や自立の支援を行う体制づくりを行う。

ア、教育相談体制を充実させ、生徒に寄り添った教育活動を推進し、中途退学・不登校の未然防止に取り組む。

(2) 生徒の人権を尊重し、体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止・根絶に向けて、学校全体として取り組む。

ア、生徒が相談しやすい環境を整備し、関係機関と連携を深めながら、生徒支援体制の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」(令和9年度には80%以上(R4 77%、R5 77%、R6 83%)を維持する)

(3) 危機管理を徹底し、安全で安心な学び場づくりを推進する。

ア、健康教育を充実させ、感染症、薬物中毒、食中毒等の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止に取り組む。

イ、自然災害等に備えた安全・安心な教育環境を確保し、避難訓練の実施等を通して安全教育を充実させる。

(4) 教員の働き方改革に取り組む。

ア、業務の電子化を進め、事務作業量を軽減するとともに、会議の精選、会議時間の短縮を行い、校務運営の効率化に取り組む。

イ、全校一斉退庁日の取り組み等を推進し、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。

※「学校ストレスの総合リスク値」(令和9年度には90以下(R4 87、R5 84、R6 82)を維持する)

※年間「時間外在校等時間」の平均(令和9年度には30時間以下 (R4 33時間、R5 29時間 R6 29時間)を維持する)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 7年 12月実施分]					学校運営協議会からの意見				
1. 回答者		対象	生徒	保護者	教員	第1回学校運営協議会（5月23日開催） 質問：志願者倍率に私学無償化の影響はあるのか 回答：ある。私学への進学比率が今、40%まで増えてきている。その中でも通信制が7%とか8%にも増えてきている。通信制高校へは、普通高からの転学ではなく、直接中学校から進学するケースも増えてきている。 質問：進学先の大学について変化はあるのか 回答：めざすレベルとして最近は大和大学があがってきている。近畿大学が少し難しい生徒の志願先として、これまでは大阪経済大学がその位置であったが、教育学部があるという点から大和大学の方をめざす生徒が徐々に増えてきている。 質問：入試システムの変更（オンライン出願やデジタル採点等）は業務に影響があるのか。 回答：ある。教員の業務量の減少につながっている。 質問：遅刻者は減ったとのことだが、理由は何か。 回答：遅刻者数はまだまだ多いが、徐々に減ってきている。始業前に校歌を流し、各授業の前にもメロディチャイムを流すなど、少し前から自主的に行動できるように促している。 質問：クラブ活動の活性化についてはどうか。 回答：4月最初にクラブ体験を実施した。今年はゴールデンウィーク前後に、試みて2回目のクラブ体験を実施した。 質問：ICTやデジタルの活用面ではどのような取り組みを行っているか。 回答：教育のICT化を進めている。授業や校務の効率化・簡略化についてアプリで利用できるものがないか研究している。今もこの会議の書記担当は、会話を自動で文字起こしをしている。それ以外でも生成AIを活用した授業もしている。掲示してある学校紹介ポスターも画像生成AIで作成した。 質問：部活動について、教員の時間外等在校時間が月30時間ぐらいになっているが、先生方の部活動指導の時間がうまくとれているのか、また外部の方を導入しているとか、今ではオンライン指導とかもあるとは聞いているが、30時間以内でうまくできているのか。 回答：月30時間というのは教員全体の平均なので、部活動を主にされている教員はやはり月60時間を超える先生方が多い。月によっては90時間を超える場合もある。対策としては、外部指導者の導入、複数顧問制の徹底などが考えられる。			
2. 実施時期		提出数/対象者	584/690	456/690	47/47				
3. 実施方法		回答率	84.6%	66.1%	100%				
令和7年度学校教育自己診断（生徒用）					R7年度肯定回答	増減	R6年度肯定回答		
1	学校に行くのが楽しい		86.8%	-2.9%	89.7%				
2	学校生活についての先生の指導は納得できる		82.9%	3.1%	79.8%				
3	自分の将来の進路や生き方について、よく考える機会がある（あった）		95.0%	2.7%	92.3%				
4	コース・科目選択をする上で学校での取り組みは役に立った		91.1%	0.2%	90.9%				
5	ICT（情報通信技術）を活用し、わかりやすい授業が行われている		91.6%	-2.3%	93.9%				
6	日根野高校は、1人1台端末を効果的に活用している		94.5%	4.8%	89.7%				
7	先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる		92.3%	-1.8%	94.1%				
8	担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる		83.7%	0.8%	82.9%				
9	日根野高校で、命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった		90.6%	0.5%	90.1%				
10	学校行事（文化祭、体育祭、校外学習など）は、楽しく行えるように工夫されている		90.1%	0.2%	89.9%				
11	日根野高校に入学してよかった		91.6%	-0.9%	92.5%				
総合的評価（全項目平均）			90.0%	0.4%	89.6%				
令和7年度学校教育自己診断（保護者）					R7年度肯定回答	増減	R6年度肯定回答		
1	お子さんは、学校に行くのが楽しいと言っている。またはそう感じられる		84.1%	-2.7%	86.8%				
2	お子さんは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。またはそう感じられる		68.4%	2.7%	65.7%				
3	日根野高校の先生は、保護者の相談に適切に対応してくれた。		90.6%	0.7%	89.9%				
4	日根野高校の生活指導（遅刻・携帯・制服・頭髪など）には共感できる		84.1%	2.8%	81.3%				
5	日根野高校では、お子さんの将来の進路や職業などについて適切な指導が行われている		92.4%	1.2%	91.2%				
6	日根野高校は、お子さんに対して「命を大切にすること」や「社会ルールを守る態度」を育てようとしている		85.4%	-1.4%	86.8%				
7	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる		87.8%	2.6%	85.2%				
8	保護者懇談以外の授業参観や学校行事、説明会等のために、日根野高校に行ったことがある		69.5%	8.5%	61.0%				
9	日根野高校は、教育情報について、提供の努力をしている		88.7%	3.2%	85.5%				
10	お子さんを日根野高校に入学させてよかった		93.2%	-1.9%	95.1%				
総合的評価（全項目平均） ※項目「8」を除く			86.1%	0.8%	85.3%				
令和7年度学校教育自己診断（教職員）					R7年度肯定回答	増減	R6年度肯定回答		
1	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている		87.2%	4.6%	82.6%				
2	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている		85.1%	11.2%	73.9%				
3	カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている		91.5%	11.1%	80.4%				
4	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる		89.4%	0.3%	89.1%				
5	いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる		83.0%	-10.5%	93.5%				
6	生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている		76.6%	-8.2%	84.8%				
7	生徒一人ひとりが興味・関心や適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている		85.1%	0.3%	84.8%				
8	学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている		74.5%	0.6%	73.9%				
9	教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている		80.9%	-6.1%	87.0%				
総合的評価（全項目平均）			83.7%	0.4%	83.3%				
【生徒の回答】(◎)									
・全11項目の肯定的回答の比率が90%（過去最高）となり、極めて高い満足度を示している									
・令和6年度に著しく高まった満足度が今年度さらに向上した									
[学習指導] 項目5「わかりやすさ」(91.6%)、項目6「1人1台端末」(94.5%)は90%を優に超え、授業に対する評価は高い									
[生徒指導] 項目2「指導の納得度」(82.9%)は初めて80%を超えた。また項目7「いじめ対応」は92.3%であり、指導に対する生徒の信頼度は高まっている									
[進路指導] 項目3「進路・生き方を学ぶ機会」(95.0%)、項目4「コース選択取り組み」(91.1%)は、どちらも過去最高の数値となり、高い信頼を得ている									
[その他] 項目1「登校満足度」(86.8%)、項目11「入学満足度」(91.6%)は微減したが、いずれも高い数値である。項目8「相談体制」(83.7%)、項目9「人権学習」(90.6%)、項目10「学校行事」(90.1%)は、いずれも過去最高の数値が示され、高く評価をされている									
【保護者の回答】(◎)									
・全9項目（項目8を除く）の肯定的回答の比率が86.1%となり、過去最高となった									
[学習指導] 項目2「わかりやすさ」(68.4%)は、生徒評価に連動して過去最高の数値となっている									
[生徒指導] 項目4「指導への共感」(84.1%)は高い数値を維持し続けている。また項目7「いじめ対応」(87.8%)は過去最高の数値となっている									
[進路指導] 項目5「進路や職業の指導」(92.4%)は過去最高の数値となっている									
[その他] 項目1「登校満足度」(84.1%)、項目11「入学満足度」(93.2%)は微減したが、いずれも高い数値である。項目3「相談対応」(90.6%)、項目6「人権教育」(85.4%)、項目9「情報提供」(88.7%)といずれも高い数値を維持している									
【教職の回答】(○)									
・項目により肯定的回答が増えているものと減っているものが混在している									
・項目5「いじめへの対応」(83.0%)や、項目6「キャリア教育」(76.6%)に関しては、生徒評価とは反して厳しい評価となっている。より高い問題意識の共有ととらえられる									
第2回学校運営協議会（10月17日開催） 質問：（授業見学を踏まえて）50分間座っていることができない生徒が増えてきているとのことだが。 回答：長い説明をしないような授業、場面展開が多くある授業を推奨し、改善に取り組み効果が上がっている。 質問：幼児教育・保育の専門コースがなくなったが、保育士も高齢化している。できるだけ保育園との連携をしてほしい。クラブ活動などを頑張った、主体的に積極的に動ける生徒を育ててほしい。 回答：保育の授業は残っている。今後もその授業を履修する生徒はおり、人材の輩出をしていきたい。世の中全般に深刻な人手不足である。教員も同様の悩みを抱えている。									
第3回学校運営協議会（1月16日開催） 質問：昨年度の転退学者16名という数値を考えると、目標の5名という数値は厳しいのではないかと。 回答：全国の高等学校の退学率が1.4%。その数値からすると10名程度の目標が妥当。しかし、「目標」という意味では、理想的には0名であり、その意味でも厳しい目標設定にしている。 質問：クラブ加入率を60%にするのは厳しいのか。 回答：家庭状況によりアルバイトをする生徒も多い。その意味では優しい数字ではない。 質問：配慮の必要な生徒はどれくらい在籍しているのか。また、どのような対応をしているのか。 回答：広い意味では、各学年で10名以上いる。起立性調節障がいなどの診断により起きらず、登校の難しい生徒などが在籍している。これらの生徒には、オンラインの授業などを積極的に進めており、さらに、個々の生徒の状況に応じて、特別配慮での履修認定もしている。 質問：遅刻者数には、電車の遅れや体調不良など、やむを得ない生徒も含まれているのか。 回答：電車の遅延は含まれない。体調不良での遅刻は含まれる。 質問：残業を減らす取り組みは何をしているのか。 回答：本校ではこの5年間、校務の電子化と会議時間の精選に取り組みを行ってきた。校務の電子化は府下でもトップクラスであり、職員会議は30分で行うなど、削減できている。 意見：教員の明るさに助けられる。そのおかげで子どもがいきいきとしていて、感謝している。									

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1. 授業改善を行い「確かな学力」を育成し、生徒一人ひとりの進路を実現する	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを探究し、よりよく問題を解決することのできる力の育成をめざした授業改善を行う</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの能力を最大化させた進路を実現する。また、専門コースを持つ普通科高校として、コースに特化した進路実現をめざす</p> <p>(3) 生徒一人ひとりに寄り添った丁寧で細やかな指導を行い、夢の実現を支援し、生徒・保護者の満足度を向上させる</p>	<p>ア、教員間の相互授業観察や研究授業を推奨し、授業アンケートを活用した振り返りを丁寧に行い、授業力向上に取り組む</p> <p>イ、ICT 機器を効果的に活用し、生徒個々の能力に応じた最適な学びを提供する</p> <p>ウ、授業における生徒の言語活動を活性化し、協働的で対話的な学びを推奨し、学びの深化をめざす</p> <p>ア、本校のキャリア教育「ひねのプログラム」を推進し、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて取り組む 「ひねのプログラム」とは ・定期的に「進路意識調査」を実施し、進路に対する意識を明確化させ、知識を高める ・講師を招き、希望する進路に分かれての講話や説明会を実施する</p> <p>イ、コースや科目選択時のガイダンスを充実させ、生徒の進路実現を適切に支援する</p> <p>ア、志学・道徳教育・人権教育・進路指導を系統的に結合したキャリア教育を行い、生徒の能力を伸ばす</p> <p>イ、多様な人材・機関と連携した学校づくりを推進し、外部機関の専門的な知見やフィールドを生かし教育内容を充実する</p> <p>ウ、優れた教育活動を展開し、その魅力を効果的に発信することで、地域から愛され、選ばれる学校をめざす</p>	<p>ア、授業改善研修を2回実施する[2回] ・授業アンケート総合スコア 3.3 以上を維持[第1回 3.42 第2回 3.44]</p> <p>イ、生徒向け学校教育自己診断「ICTを活用した授業への満足度」85%以上を維持[94%]</p> <p>ウ、授業アンケート「考える時間や発表する活動を多く取り入れている」3.3 以上を維持[第1回 3.36 第2回 3.39]</p> <p>ア、生徒向け学校教育自己診断「進路や生き方を考える機会」85%以上を維持[92%] ・国公立・難関私立大学(関関同立・産近甲龍)の合格者数 20 名以上[24 名] ・幼児教育・保育系合格者数 10 名以上[10 名] ・看護・医療系合格者数 48 名以上[46 名]</p> <p>イ、生徒向け学校教育自己診断「コース選択・科目選択への取り組み」85%以上を維持[91%]</p> <p>ア、生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方をよく考える機会」85%以上を維持[92%]</p> <p>イ、外部講師による特別授業等年 30 回以上を維持[33 回]</p> <p>ウ、入学者選抜志願倍率 1.10 倍以上を維持[0.97 倍]</p>	<p>ア、(○) 授業改善研修(2回) 『計画通り研修を2回実施し、目標を達成した』 ・授業アンケート総合スコア [第1回] 3.44 [第2回] 3.46 (◎) 『生徒の授業に対する評価は、目標を大きく上回った。授業改善が進んでいると評価できる』</p> <p>イ、「ICTを活用した授業」への満足度(91.6%) (◎) 『昨年と同様に高い数値を示している。ICTを活用した授業改善が大きく進んでいると評価できる』</p> <p>ウ、授業アンケート「考える時間や発表する活動」[第1回] 3.40 [第2回] 3.44 (◎) 『主体的・対話的な学びへの転換は順調であり、目標を大きく上回っている』</p> <p>ア、「将来の進路や生き方をよく考える機会」に関する満足度(95.0%) (◎) 『昨年度より2.7%上昇し、目標を大きく上回った』 ・国公立・難関私立大学(関関同立・産近甲龍)の合格者数(23名) (◎) ・幼児教育・保育系合格者数(11名) (○) ・看護・医療系合格者数(56名) (◎) 『3つの項目すべての目標の合格者数(実人数)を達成した。本校の魅力化・特色化が大きく進んでいる』</p> <p>イ、「コース・科目選択への取り組み」に関する満足度(91.1%) (◎) 『昨年度よりさらに0.2%向上し、目標を大きく上回った。ガイダンス等に高い評価を得ることができた』</p> <p>ア、「将来の進路や生き方をよく考える機会」に関する満足度(95.0%) (◎) 『昨年度よりは2.7%上昇し、目標を大きく上回った』</p> <p>イ、外部講師による特別授業等 35回 (○) 『医療・看護・保育・幼児教育に関する講師中心として、多くの講師を招聘し、目標を達成した』</p> <p>ウ、入試志願倍率(1.07倍) (○) 『大阪府の公立高校全体の志願倍率が大きく低下する中、目標には少し届かなかったが、多くの志願者を確保できた。今後も、より効果的な広報活動を実践し、志願者の確保に努める』</p>

## 府立日根野高等学校

<p>2. 豊かでたくましい人間性をはぐくむ</p>	<p>(1) 人権・多様性を尊重する教育を推進し、差別やいじめを許さない意識、なくす実践力を育てる</p> <p>(2) 部活動、学校行事、ボランティア活動等への参加を通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育成する</p> <p>(3) 保護者・地域への情報提供を積極的に行い、保護者等の意見を教育活動に取り入れ、開かれた教育活動を推進する</p>	<p>ア、「大阪府いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向け、組織的に取り組む</p> <p>イ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する</p> <p>ウ、教科「情報」の授業やHR等を通して情報モラル教育を推進し、情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てる</p> <p>エ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る</p> <p>ア、部活動、学校行事を活性化し、生徒が自主的に活動、運営することにより、自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育てる</p> <p>イ、地域と連携し、生徒の発信・発表の場を多く設けることで、社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解させる</p> <p>ウ、生徒の自主性・自律性を尊重し、生徒会活動等を通して生徒の主体性を育て、自己実現を図る力を育成する</p> <p>ア、保護者や地域との連携を深め、学校、保護者、地域が一体となった教育の充実を図る</p> <p>イ、多様な手段を用いた情報発信を行うとともに情報収集を積極的に行い、意見を反映した学校経営を行う</p>	<p>ア、生徒向け学校教育自己診断「いじめに真剣に対応」85%以上を維持[94%]</p> <p>イ、人権学習を各学年3回以上実施[1年(6回)2年(3回)3年(4回)]</p> <p>・教職員対象の研修を2回以上実施[2回]</p> <p>ウ、生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」85%以上を維持[90%]</p> <p>エ、のべ遅刻者数/4-12月 4,000人以下を維持[3,419人]</p> <p>ア、部活動加入率 55%以上[53%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」85%以上を維持[90%]</p> <p>イ、校外での上演、展示回数 20回以上[28回]</p> <p>ウ、生徒向け学校教育自己診断「先生の指導は納得できる」80%以上を維持[80%]</p> <p>ア、保護者向け学校教育自己診断「保護者の相談に適切に対応してくれた」85%以上を維持[90%]</p> <p>イ、保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供努力満足度」85%以上を維持[86%]</p>	<p>ア、「いじめに対する対応」満足度(92.3%) (◎) 『昨年と同様に高い数値である。目標を大きく上回りいじめ対応についての満足度は極めて高い』</p> <p>イ、人権学習実施回数 1年(6回)2年(3回)3年(4回) (○) 『計画通り人権学習を実施し、目標を達成した』</p> <p>・教職員研修(2回) (○) 『計画通り人権研修を実施し、目標を達成した』</p> <p>ウ、「命の大切さ、社会のルールを学ぶ機会」に対する満足度(90.6%) (◎) 『昨年度より0.5%向上し、目標を大きく上回った。極めて高い満足度を示している』</p> <p>エ、遅刻者数(4~12月) 3,198人 (◎) 『遅刻者数の減少をめざして、様々な取り組みを行った結果、大きく減少した』</p> <p>ア、部活動加入率 57.1% (○) 『昨年度より4.6%加入率が増加し、目標を達成した』</p> <p>・「学校行事」に対する満足度(90.1%) (◎) 『昨年度より0.2%向上し、目標を達成した。きわめて高い満足度を維持している』</p> <p>イ、校外での上演、展示回数 24回 (◎) 『吹奏楽部を中心に、ダンス部、書道部、演劇部、華道部、美術部で多くの活動があり、目標を上回った』</p> <p>ウ、「先生の指導は納得できる」に対する満足度(82.9%) (◎) 『昨年度よりさらに3.1%上昇し、目標を大きく上回り、目標を達成した』</p> <p>ア、保護者「相談に適切に対応」に対する満足度(90.6%) (◎) 『昨年度より0.7%向上し、目標を大きく上回った。極めて高い数値を維持している』</p> <p>イ、「保護者への教育情報提供」に対する満足度(88.7%) (○) 『昨年度より3.2%向上し、目標を上回った。高い満足度を示している』</p>
<p>3. 安全で安心な学び場を作るとともに、働き方改革を実現する</p>	<p>(1) 障がいのある生徒への理解を深め、SC等の専門人材との連携を図りながら、合理的配慮や自立の支援を行う体制づくりを行う</p> <p>(2) 生徒の人権を尊重し、体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止・根絶に向けて、学校全体として取り組む</p> <p>(3) 危機管理を徹底し、安全で安心な学び場づくりを推進する</p> <p>(4) 教員の働き方改革に取り組む</p>	<p>ア、教育相談体制を充実させ、生徒に寄り添った教育活動を推進し、中途退学・不登校の未然防止に取り組む</p> <p>ア、生徒が相談しやすい環境を整備し、関係機関と連携を深めながら、生徒支援体制の充実を図る</p> <p>ア、健康教育を充実させ、感染症、薬物中毒、食中毒等の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止に取り組む</p> <p>イ、自然災害等に備えた安全・安心な教育環境を確保し、避難訓練の実施等を通して安全教育を充実させる</p> <p>ア、業務の電子化を進め、事務作業量を軽減するとともに、会議の精選、会議時間の短縮を行い、校務運営の効率化に取り組む</p> <p>イ、部活動方針の順守や全校一斉退庁日の取り組み等を推進し、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る</p>	<p>ア、転、退学者数5名以下[16名]</p> <p>ア、生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」80%以上を維持[83%]</p> <p>ア、教職員向け講習会及び生徒向け講習会を各1回以上[1回]</p> <p>イ、火災と地震を想定した避難訓練を各1回以上実施する[火災1回、地震1回]</p> <p>ア、「学校ストレスの総合リスク値」90以下を維持[82]</p> <p>イ、年間「時間外在校等時間」の平均30時間以内を維持[29時間]</p>	<p>ア、転、退学者数 12名 (△) 『コロナ禍以降、登校に課題を抱える生徒が増加をしている。今年度きめ細やかな対応で、一定の成果があり、昨年度よりは減少した。結果として、目標に届かなかったが、次年度も一層の取り組みを行い、目標の達成に努める』</p> <p>ア、「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」に対する満足度(83.7%) (◎) 『昨年度から0.8%向上し、過去最高の数値となった。他校の比べても、とても高い満足度を示している』</p> <p>ア、教員向け及び生徒向け講習会を1回ずつ実施(○) 『計画通り実施をし、目標を達成した』</p> <p>イ、6月に火災を想定した訓練を、10月に地震を想定した訓練を1回ずつ実施した。(○) 『計画通り実施をし、目標を達成した』</p> <p>ア、「学校ストレスの総合リスク値」 81 (◎) 『5年間連続で80台であり、さらに低下傾向を示している。ストレスレスな職場の実現が図れている』</p> <p>イ、時間外在校等時間 29時間 (○) 『校務の電子化や会議の縮減を図り、働き方改革が進んでおり、目標を達成した』</p>